

- 1 開会
- 2 委員長挨拶
- 3 町長挨拶
- 4 議題

令和2年度地方創生推進交付金に関する事業評価について
事業評価について説明

堀川委員長 ただいま、事務局から説明がありましたが、KPIについて、令和2年度事業を評価するにあたり、ひとつは、ご意見ご質問、または、今後に向けた事業に対するご提案があれば、委員の皆様のご発言をお願いいたします。

大地委員 特産品の開発事業、1,281,547円。ここに講師謝礼が5万いくらかありましたけど、それ以外は、内容的には具体的に何なんですか。

産観課長 交流施設の借上料です。120万円が借上料になっています。

大地委員 交流施設っていうのは。

産観課長 交流施設は、町内の空き店舗を借り上げて特産品開発の交流の拠点場として整備している施設を借上料として年間120万円で借り上げている金額がそこに計上されています。

大地委員 そこに具体的に何が起きているんですか。その施設では。

産観課長 基本的にその施設を活用して、特産品の開発のための講習会ですとか、具体的な試作品を作る予定なんですけど、令和元年、2年と交流活動についてはコロナの関係で縮小せざるを得ない関係で自粛している状況でした。

大地委員 ということは、120万円は使っていないと。結果的には。

産観課長 施設の借上料の契約を結んでおりまして、借上料として支出はさせていただいております。

大地委員 はい、わかりました。

滝口委員 先ほどの続きですけれども、地方創生とかCCRCというのは、民間に資金を流して、車で例えるならガソリンを入れて、エンジンを回して、持続可能な事業にしていくという大義があると思うんですけども、先ほどから空き家バンクといい、5年間でほぼほぼ実績がないわけですよ。移住定住の前に借り上げたマンションの一角のところも、これ検証させると、事務方を責めるのはあれなんですけど、その失敗を踏まえて今度のデコハウスも、僕も協力した経緯があるんで、思い入れは強いんですけど、事業内容がですね、町長等々との考えの違いとか、なかなか思うような先ほど言った行政がからむとやりにくいみたいなことで、それもストップしてる。それはですね、正直去年の6月から家賃だけ払って1年間ストップしちゃってるわけですよ。これはですね、住民に対して説明が、議会も含めて再三再度言ってるんですけど、つかないだろうと。もう、だめならやめろみたいなことを僕は言っちゃってるんですけど、行政という立場、事業をやる体質になってないんで、これはコンサルタントの木下さんてよくその人の本読んで、地元がやばいときに読みなさいみたいな、この辺の近隣の町づくりに関わっている人は結構読んで、まったくそのとおりのことが起きてるんですね。特産品の開発のほうも借り上げたはいが、なかなか内容が伴わないで、ようやくレモンとかの事業が始まろうとしてるんですけども、観光課長にも言ったんですけども役場がやるんじゃない

いんだと。役場はあくまで後押しで、やるのは民間の企業なり、農家さんにやっぱりリスクをしょってもらってやらないと事業というのは絶対前に進まないです。自分の金を痛めなければ本気にならないですよ。オリーブがいい例で、オリーブも検証するとですね、ちょっと議会的に入っているのだけれどもですけど、まったくずっこけたような話があるわけで、それは事業っていうのは失敗、ほとんど90%は失敗で、その積み重ねで前へ進めばいいと思うんですけど、やはりですね、空き家バンクの話ですけど、町長言ってましたけど、もう民間に任せて役場がやるような事業じゃないですから、空き家バンク何て。やるとしたら窓口はNPOを作ってそこにあれで、あとは民間に投げちゃえば、あとは役場は行政的な手続きの後押ししてくれればいいわけで、不動産会社は役場を別にあてにしているようなことなんてまったくないんで、もう自力で飯の種を探して物件も必死になってやってるわけで、やっぱり役場はいろんな手続上の後押しをするのが、で、汗をかいてもらうのが当たり前で、役場自らがあまり事業をやったところでしょっぱいことないと思うんで、その辺ですね、民間の後押しというところで、令和3年度は特にレモンをやるんだったらレモンをやるで、自己資金があればいいんですけど、借金でもしてもらってやってもらうような後押しをしないとレモンも多分うまくいかないと思うんで、その辺そういう考えでやっていただければなと思います。なかなかいつも厳しいようなことを言っちゃってあれなんですけど。

産観課長 今ひとつレモンの話をさせていただいて、新しい取り組みとして農業者の方の要望がありまして、そこからスタートした取り組みなんですけど、あくまでも今委員さんおっしゃったように、動機付けとか、後方支援という形で行政があって、先ほど私が生産組織をしっかり作ってと言った意味としては、やっぱりある一定の量とか人の組織がないと、この産地化というのはなかなか難しいという全国的な事例もありますので、そういったものが一つ確立されれば徐々にですね、進んでいくのかなと思いますので、委員さんのおっしゃった意見を十分にですね、参考にさせていただければと思います。

田中副委員長 産業観光課のこの交流施設っていうのは、町中の中心部の前に保健福祉課が使っていた所ですか。

産観課長 一番最初につきましては、保健福祉課の方の交流施設として整備されたんですけど、その後には・・・浜にあります旧店舗白鳥丸さんの店舗のことでございます。

田中副委員長 そうですよ。あそこはお店が開いている時は困っちゃうかもしれないですけど、駐車場が割と自由に使えたので、保健福祉課の時はよく利用してたんですけど、この産業観光課のオリーブの育て方ね。DVDをみんないただいて、見て、こういうことでいいんだなとちょっと安心したんですけど、3年経つのにあんまり育ってない。枯れてはいないけど、育ちも遅い。みんな不安なんです。農家の方は知識があるからいいけれど、御宿台で2,3本買ってる人はね、ちょっと不安が募ってきてるんですよ。なので、あの場所だったら、持ち込めるのでそういう利用の仕方もこれからは考えていただけたら嬉しいなと思います。

産観課長 是非そういった心配解消というよりも、そういった目的の使い方の施設でもありますので、コロナ対策を徹底して、積極的に今年は活用していきたいと思いますので、参加していただければと思います。

- 大地委員 今産業観光課長が特産品の規模を初めて言ってくれたんですけど、オリーブは今御宿町で、町中で2百数十本。でこれで産業にはならない、絶対に。少なくとも一桁、一千本の規模にいかなければ特産品の産業にはないだろうと思う。レモンも新規就農者が何人かでやりたいという話を立ち上げて、これも3人で何本植えるのかわかりません。ただ産業としていえるには絶対に規模が必要。今まで御宿町でいろいろやってきたけれども、規模に関して目標数、目標数量一切ないんですよ。それがないと仮に、どっかと取引するにも話にならない。すべてスケール感を、どの目標でやるかってのは、絶対に必要なんですね。まあそれを初めて課長が言ってくれたんで、少し安心ですけど、大変ですけど是非規模を。それから、漁業はわかりませんが、農業は明らかに今まで御宿町の農業を引っ張ってきた人は、完全に年齢的に賞味期限切れです。だから、若い人にどうやって入ってもらうか、意識付けするか。御宿町にいないんならば、都会から農業に関した人を連れてくる、ぐらいまでいかないと次の可能性はないだろうというふうに思っています。そういう分では、大変ですけど是非頑張ってもらいたい。お願いします。
- 産観課長 いろいろな、生産から加工までのお話をさせていただいた、戦略をもってやっていきたいと思えます。また、町内の担い手も含めまして、今コロナの関係で移住定住もそうですし、こちらにくるサテライトオフィスの方もそうですけど、農業もそういったことが起こっているところなので、そういった情報をつかみながら、受け皿の整備をしていきたいと思えます。
- 恩田委員 移住者の数と移住相談者数ですね、先ほども出たんですけど、移住したいなというメインのものを、何にするかというのを真剣に考えないといけないのかなと。そういうところで、どの辺のところに目標を置けばいいのかというのは、もう少し集中して考える必要があるかなという印象を持っています。ただ単にインターネットでの宣伝もいいんでしょうけれど、何か魅力づくりのほうを考えないといけないのかなと思ってます。
- 企財課長 今地方への移住が高まっている中で、相談いただける方は御宿に何を求めているのか、他と違ってなぜ御宿なのかというところを、相談を受けながら少しずつその辺を意識して外に発信していけるように、これから取り組んでまいりたいなと。今までなかなかしつかりとした相談体制もとれていない中で、今リモートやメール等を使うとなると、対面よりもより細かな相談があったりという形もありますので、そうした中で御宿町として移住の魅力というのはどこにあるのかというのを、きちんと捉えて、発信していきたいと考えています。
- 鶴岡委員 先ほどの在宅医療体制にも若干関連はするのですが、在宅医療にならない方々への対応といいますか、介護予防の方々ですね、交流を進めて人材育成、それから交流を活発にするという活動に関してなんですけれども、こちらにはやはり人材育成ですので、時間がかかることはもちろんですし、今コロナの関係もありますんで、非常に難しいことはわかるんですけど、その状況の中で、町としてはどのような、先ほど社協との連携などもあがっていましたが、どのようなことが可能なのか、あるいは先ほどもありましたように、年間での目標数値ですとか、そういったことがもしあるようでしたら、教えていただきたいと思えます。
- 保福課長 介護予防事業でございますが、町では毎週水曜日に「すこやか」という介護

予防事業をやっておりまして、参加者に大変好評です。コロナが流行ってからずっとお休みをしていたんですが、ただ単に家に籠っていても衰える一方ですので、担当の保健師がいつも参加する方に、一人一人に電話で現状の確認などを行いました。また、有志のボランティアさんが皆さん元気づけようじゃないかということで、絵手紙を作って送って励ましたりとか、そういうような活動をコロナ禍では行っておりました。また、昨年11月頃から感染症予防に気を付けながら、また再開をしました。今までは広い部屋に一堂に介してやっていたんですけど、現在は時間で3部制にしまして、人の入れ替えをしながらやっております。こちらにつきましては、特に目標値というものはないんですが、実際御宿町は高齢者が多い割に介護認定率が低いというところで、結果が出てるのかなあとこのころがございまして。介護保険料も新聞報道によりますと、軒並み上がっているところなんですけど、うちの町につきましては、第8期の介護保険計画が今年度から始まるんですけど、前回の7期の保険料より標準で、月額で100円下げることができました。中心値なので年間で1,200円ですが、軒並み保険料が上がっている団体が多い中で、下げることができたところが効果が出てるのではないかなというように判断しております。

大地委員

移住相談者の数のところですけども、私のところは古い家なんで、古民家マニアがよく情報をもらいに来るんです。この辺に住みたい。で御宿だけじゃなくて近隣町村、みんな行政を訪ねて情報をもらってるんです。その意見の中で、圧倒的に評価が高いのはいすみ市です。出てくる資料と情報量が全く違うと。御宿も評価してますけど、それは言いませんけど、いすみ市はどういうことをやってるか、それは多少スパイをしてもいいじゃないですか、情報をもらってきて。御宿に住みたい、でもだめならいすみでもいい、大多喜でもいい。結構そういう人いっぱいいるんですよ。残念ながらその情報量では今は明らかに負けてるみたいです。ということで、ぜひ頑張ってください。

企財課長

それは承知をしております、どのような、例えばパンフレット一つとりましても、発信の仕方を取りましても我々は正直全くできている状況にありませんので、なかなか体制的にも含めて同じような取り組みができてないのが現状です。いすみ市につきましては、窓口として独立した移住専属の窓口がありまして、その下にNPOだとか、実際に民間のレベルでまちの移住相談を受けたり、実際に案内をしたりという人が数十人組織としてございまして、なかなか現状いすみ市と同じようなことはできませんけれども、その中でもうちのほうも、パンフレットの見直しであったりだとか、情報を集める、出し方だとか、少しずつですが取り組んでるところではございまして、正直なかなかそこまで達していないというのが現状でございます。我々もいすみ市のそういった移住の部分のホームページだったりだとか情報とかっていうのはいろいろ見させてはいただいているんですけど、まだ実際にその状態まで行けてないというところで、少しでも進めていきたいとは思っています。

田中副委員長

移住相談の数についてなんですけど、役場にいらした人12組もあるんですよ。多いと思うんですけど、わざわざ足を運んでくださって。年代的にはどういう方たちなんですか。

企財課長

非常に若い方は実際には来られておりませんが、3、40代だとか、ご夫婦で見えたりとか、間もなく仕事が終わるような方ですとか、そういった世代が多いです。この辺で仕事をしたくてという3、40代の男性の方も比較的多かった

印象がございます。

田中副委員長 前の会議でありましたように、環境よりも仕事があるかないかが課題だっ
ていう表現がありましたよね。そうすると、30代40代の方は、通勤圏ではない
けれども、御宿町のあたりで何か仕事があったらいいなっていう相談ですか。

企財課長 やはりもう、リモートでって考えている方と、あとはこういう気候とか海
のそばで、ご自分でお店を出したいとか、そういった形でこの会社がどうと
か、どこかお勤め先がありますかという話もなくはないんですけど、最近多い
のはやはりそういった方が多いと思います。ですので例えば実際に別荘だっ
たりですとか、土地を持ってる方は、具体的な話があったりだとか、そういっ
たことが多いかなと思います。

田中副委員長 保健福祉課の関係で、先ほど鶴岡委員さんのことで、田辺課長さんが答え
られた中で、元気生き生き教室ってボランティアの事業がありますよね。あれ
も5つもグループができたんです。毎年1つずつグループができていって、な
ので交流サロンで人材の育成や担い手となる組織の立ち上げが少し難しい、
時間がかかりそうかなというお話ですが、元気生き生き教室は毎年保健師さ
んが一生懸命声をかけて、だいたい1つのグループが、6、7名。それで5つの
グループがあるので、40名少しなんです。それはやはり自分自身も健康にな
るので、運動を覚えたり、そのメリットって交流サロンともう少し連携でき
たら、会場を交流サロンにすると、せっかく生き生き教室も実施してるん
ですが、この指標3の交流サロン利用者の数には入ってないんですよ。ちょっ
ともったいなあと思ったりするんです。広い意味では、交流サロンなんです
よ。私も介護予防サポーターの一人ですけど、あそこで交流の場がうまく継続
できてるんです、十区を順番に回って。なので、元気生き生き教室を交流の場
という捉え方もあるかなと思います。いかがでしょうか。

保福課長 毎月会場を変えて行政区ごとに回っている教室ですよ。そうですね、あ
の教室はとても好評で、皆さんご協力いただきながら行っていることは承知
しております。こちらについては、交流サロンの方とまたどういう連携ができ
るのかどうか検討しまして、おっしゃるとおり人材がいっぱいいらっしゃ
るので、その辺もお手伝いなどをしていただけるような人も、その中から出
ていただければと思いますので、貴重な意見ありがとうございます。検討させて
いただきます。

堀川委員長 他にご意見ございますか。無いようでしたらその他に進みたいと思います。
無ければ、事務局から何かありますか。

事務局 今回の検証結果の公表につきましては、ホームページ等で公表いたします
ので、よろしく願いいたします。

堀川委員長 それでは、本日KPIについてはかなり厳しい評価があったようです。ま
た、新しい提言、提案があったようでございますので、皆様の貴重なご意見を
伺いまして、事務局はぜひ漏らさないように進めて、できるだけいい御宿町づ
くりといたしますか、ぜひ貢献できるようにやっていただきたいとご協力をお
願いしまして、本日の会議を閉めたいと思います。ありがとうございました。